



# **TWS Exlete 110M Exe Monoblock**

◎サイズ／價格
22inch × 9.0 ~ 10.5 /
205,200 ~ 208,440 円
◎カラー：
グロスブラックカットフィニッシュ／
グロスガンメタカットフィニッシュ／
フラットブラック
◎対応車種：メルセデス AMG
／ボルシェ／アウディ／
レクサス等



TWSが誇る最先端の切削技術を取り入れたことによって、まるで漆黒の中からシャープなスポークが浮かび上がるような造形を実現。装着車種を見据えたボルトホールの配置にも一切の無駄がない。写真のグロスブラック・カットフィニッシュは、艶感あふれる黒色と、きめ細かいボリッシュが放つ虹色の質感が特徴的だ。

昔ならこうしたサイズは攻め  
たドレスアップカーの印象が色濃  
かつた。しかし昨今の新型車は、  
純正ホイールサイズとして採用さ  
れる例が珍しくない。

そうした時流を踏まえてTWS  
は「大きなフェイスを得たことで、  
純正ホイールは今後ますますデザ  
インが複雑化していくだろう」と

カラーリングで用意されるのは  
3種類。グロスブラック／カット  
フィニッシュやグロスガンメタ／  
カットフィニッシュは、鋭利なス  
パークが浮かび上がつて見えて、  
エレガントな印象が際立つ。シッ  
クに足もとを落ち着かせる、ある  
いはスポーティな雰囲気を高める  
なら、全身黒ずくめのフラットブ  
ラックも用意されている。

考へてゐる。だからこそ「車体デ

を考えている。だからこそ「車体デザイン」の時点からマッチングが図られる純正ホイールを超えていく。「デザインパフォーマンスを与えたい」という目的を持つて、110Mエグゼを具現化したという。自社ブランドの製品はおろか、大手自動車メーカーのOEMや、またはワークス系レーシングチームへのホイール供給などを続けてきたTWSならではの回答だ。

モノブロックで表現するTWS

流のプレミアムホイールは、実際当てはめる車種の世界観にうまく溶け込み、エレガントさやスポーティさを引き立てる。TWSが目指してきた「純正ホイールを凌駕するような素逸なスタイリング」とは、まさにこういうことかと思う。もちろん、世界最先端の鍛造技術を持つがゆえ、ただ美しいだけではなく、性能にも抜かりはない。表層のドレスアップ性の裏に隠された実直な性能追求こそが、TWS

世のプレミアムSUV勢やレクサスLC、LSをターゲットとした22インチがデリバリー開始。今後は21インチが拡充される予定だ。



# OM ツク TWS Exlete 110M Exe Monoblock



世のエグゼクティブカーに融合する  
TWSならではの“鍛造美”が宿る

リポート | 中三川大地 | D.Nakamigawa

持ち前の鍛造技術に加え、最先端の切削技術を活かして生まれた造形は、大口径モノブロックの常識を覆すような世のエグゼクティブカーに相応しい美しさと質感を持つ。

**大口径に特化したがゆえ繊細な造形を実現した**

保有する複数のカーテゴリーから、それぞれ矢継ぎ早に新作が公開されている。かつての鍛造専門会社が、TWSというオリジナルホイールブランドを立ち上げて早10年近くが経つ。新製品攻勢の勢いは衰えるどころか、年を追うごとに増す一っぽうだ。自社設計・生産による鍛造製法を絶対としたプレミアムホイールメーカーとしては異例の成長を続ける。

18年も豊作のようだ。新作のどれもが魅力に満ちあふれているが、ここではEX-elite（エクスリート）における話題作、その名も110Mエグゼ・モノブロックを取り上げたい。TWSのフラッグシップに相当するEXspur（エクスピア）よりも敷居を低く置きながらも、TWSらしい性能とビジュアルを追い求め、輸入車を中心あらゆる車種カーテゴリーに向けた製品を投下してきたエクスリートにあって、この新作の狙いはどこにあるのか。

名前を紐解けば、その存在価値が浮き彫りとなる。スポーツの本数を示す110Mの後に続くエグゼ。このシリーズは世界中のエグゼクトイブカー（ハイエンドカー）を対象として、2ピース構造を持つ20インチ以上の大口径をラインナップしてきた。しかし今作はモノブロック、つまりエグゼとしては初の1ピース構造を採用した

銘柄となる。モノブロックとはいっても、大口径一辺倒なのは変わらない。今春に22インチのデリバリーカーが開始され、やがて21インチの拡充も予定している。

大口径に特化したことでの妥協なくデザインできたのだろう。どこにも無理や無駄を感じさせない伸びやかな表情を手に入れたようを感じる。このデザインは、TAN-E-ISAの鍛造技術はおろか、実際に形づくる最先端の切削技術により製品として結実する通常の常識ではプログラミング、加工ともに困難だとされる造形を等高線加工をという特殊技法を取り入れつつ時間をかけて丹念に削り出す。結果として生まれた造形は、ホイールという範疇を飛び越えて宝石のように美しい。

こうした大口径ゆえに、対象となる車種は国内外のプレミアムカーとなる。主軸を担うのはハイエンドSUVD、定番たるドイツ車勢はおろか、レクサスに対してもマッチングが図られている。SUVではないものの、大口径ホイールを履きこなすLS500やLS500系もターゲットとなる。

また、設計段階から世界中のハイエンドカーを見据えて対象車種を見越すからこそ、汎用性を抑えた専用設計が可能となり、結果として迫力のコンケイブフェイスを実現。二本の（二手に分かれた）スポーツバーが一本になりセンターハンター深さ45mmという数値以上の

大口径に特化したがゆ  
繊細な造形を実現した

銘柄となる。モノブロツクとはい  
え、大口径一辺倒なのは変わらな  
い。今春に22インチのデリバリー  
が開始され、やがて21インチの拡  
充も予定している。